

● 事業名

第8期 南紀熊野観光塾

基礎講習・塾生講習・オンライン観光塾開催!

～持続可能な地域のあるべき姿を学ぶ地域経営塾～

● 概 要

南紀熊野サテライトは、紀伊半島南部に高等教育機関が少ないことから、大学、和歌山県、南紀熊野地域11市町村等が連携して「知の拠点」を構築することを目的に設置をされて、2020年度に15周年を迎えた。開設から現在まで、大学、県、市町村等で構成される連携協議会に支えられながら住民や連携組織のニーズに呼応した活動の範囲を広げながら本学の教育研究活動を社会還元する場になっている。

南紀熊野サテライトが実施している高等教育は、本学の経済学部経済学研究科 科目等履修生の大学院科目と学部開放科目 地域連携展開科目の2つのコースを年間12～14科目の正規科目を前期、後期に分けて紀南地域で開講している。開講内容は、ニーズ調査をもとに課題関心の高い内容を選定して構成し、高校生、和歌山大学生、社会人が南紀熊野地域をキャンパスに、座学や演習を交えて同じ教室で学んでいる。また、この大学講義の設置とは別に、受講者の求めに応じて各種のプログラムを実施。地域経営塾「南紀熊野観光塾」やサイエンスカフェ「ジオカフェ」「世界農業遺産カフェ」などの学習機会を年間6回～8回程度実施している。

今回、コロナ禍で開催した南紀熊野観光塾に関して報告する。

● 実施内容

「第8期 南紀熊野観光塾」

- 日 時 (基礎講習) 2020年11月25日(水) 対象: 南紀熊野地域在住者(参加40名)
(塾生講座) 2020年11月26日(木)、27日(金) 対象: 塾生経験者(参加8組16名)
(オンライン観光塾) 基礎講習と同日の同時刻に実施、対象: 県外受講者、他(参加35名)
- 会 場 (基礎講習) 和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー 多目的ホール
(塾生講習) 和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー 研修室4、情報実習室等
(オンライン観光塾) zoomウェビナー利用、民間企業(株式会社南紀白浜エアポート)と連携開催
- 講習テーマ 基礎講習「これからの観光を考える」、塾生講習「地域ならではの商品づくりとは」
- 主 催 和歌山大学南紀熊野サテライト
- 共 催 和歌山大学観光学部、株式会社南紀白浜エアポート
- 後 援 和歌山県、一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー

● 事業の経緯と今年度の特徴

「南紀熊野観光塾」は、観光を手段とした地域振興を担う中核人材を育成することを目的に、2013年に設置されて現在まで8期、13回を実施。卒業生を372名輩出しており、卒業生は紀南地域で中核となって活躍している。

基礎講習と塾生講習に分けて年に2回、参加者を募り、深度の違うプログラムを実施している。

主な参加者の属性は、地方公務員や地方議員、観光事業者、宿泊事業者、経営者で、1期～8期塾生の平均年齢は42歳、20代～50代の地域振興を担う地域の現役世代が入塾している。常に変化を続ける観光や地域経営の実態を学ぶために職員研修の目的での利用もされている。

また、実社会の課題に取り組む社会人と学生とが交流する機会にもなり、参加した学生が触発されてインターンシップで学習を深めている。大学講義と実社会での実践を相互に反復することで社会人がどのような課題に悩み、塾を受講しているかに関心を持った学生が、南紀熊野観光塾をテーマに塾生に聞き取り調査をして卒業論文をまとめるなどの教育効果も生まれている。

塾生同士のネットワークが広がることで、自治体や業種の垣根を越えたネットワークが様々な主体間で構築されており地域の課題にチャレンジしている。観光塾では設置当時からグーグルの遠隔会議システムを活用してオンラ

インによる遠隔講義の手法も取り入れて、離島や遠隔地の講師や、多忙な講師を招聘した講義を提供してきた。南紀熊野サテライト客員教授山田桂一郎氏を塾長に、観光学部出口竜也教授、竹林浩志准教授、教育学部此松昌彦教授と共に定評のある地元や先進地の講師陣を招聘することができ、現在もリピーターに支持されて全国から塾生が南紀熊野に参集して学ぶ機会になっている。



感染症対策をとって実施された第8期の観光塾（塾生講習）

今期の「第8期南紀熊野観光塾」（基礎講習、塾生講習）では、ウィズコロナ時代の今後の観光戦略の立案に関心が高まるなか、県内の観光事業者や自治体職員、地方議員等、地域住民らが受講。今期は3つの開講スタイルで実施して3日間で、延べ91名が参加した。コロナ禍での開催となり、県内と県外の参加者の接触を避ける配慮をするために対面実施と同日同時配信でオンライン観光塾を配信。県外者は、オンライン観光塾を遠隔で受講した。オンライン観光塾は包括連携をしている株式会社南紀白浜エアポートと連携して配信した。

● 受講アンケートより

基礎講習アンケートの入塾目的の上位は、「観光の知識を身に付けたい」「地域づくり、地域プロモーションに関心がある」が多く、記述式では「コロナ禍において観光産業はどのように変わるのか、コロナ後の観光業について学びたい（田辺市、地方議員、会社員）」「インバウンドから対象を変更し国内向けの商品をどう作っていくかに関心がある（田辺市、旅行業）」「昨年までと状況が一変した中で今後に向けた観光と地域振興、地域活性化について新たな知識を身につけたい（白浜町、自治体職員）」との記載があり、ウィズコロナの観光戦略やコロナ後の観光のあり方などに関心が高いことが伺われた。実施後アンケートでは、「地域マーケティングの重要性」、「勘や経験で進めずデータの裏付けを明確化すること」、「ターゲット設定の重要性がわかった」と塾の内容に触れるものから「事実を正しく捉えることの重要性を学んだ」「コロナ禍のGoToで翻弄されずに来てほしくない客を捨てる大切さを学んだ」「地域の商品を作るのは顧客、データを活用」との記載があり、塾生が今後に取り組む指標が明確化されたようである。

● 今後に向けて

現在、コロナ禍で様々な業種が業態の変化を求められている。人を集めて実施する対面での学習機会の提供が難しくなり、2020年は講演会や塾、授業は中止を余儀なくされた。こうした環境下でも地域で継続して学びたいという声は多く、2020年度後期から学生や紀南地域の社会人の求めに応じてオンラインや感染対策を施した学習機会を設置した。

南紀熊野サテライトでは、和歌山大学の立地の強みでもある南紀熊野の特有の自然や歴史、文化を活用した教育研究を現地支援する拠点として活動しているが、学生の移動も制限され、大学の地の利を享受できていない状態下にある。こうした中、学生からコロナ禍でも地域の産業や世界農業遺産に関して継続して学習したいとの要望があり、世界農業遺産を題材としたサイエンスカフェを、12月～3月に計6回実施した。中高大連携の事業として、高城中学校、南部高校、和歌山大学クリエの学生、社会人学生等が参加。南紀熊野サテライトのコーディネーターが現地や講師の調整を行い、生態システムやミツバチの研究者、炭焼き職人、梅農家、経営者に登壇を依頼して、満開の梅畑、炭焼き窯の前からもzoomを活用した生配信をした。実施には、観光塾生でサテライト科目の社会人学生が受け入れ先となり、学生演習や現地配信等の学生の教育に協力頂いた。加えて、2021年はコロナ禍の今後の暮らしを考えるうえで重要な、情報リテラシーや福祉、哲学等を取り扱った授業を新設した。

日々変化する地域の課題と接する紀南に設置されているからこそできる取り組みや、社会環境が苦難な時にこそ地域とともに課題を乗り越える知識を付ける取り組みが、数年後の当地のために必要である。

設置15年が経過し、地域の中核として、課題を克服しようとする人材が育っている。量から質の転化や地域社会での貢献も求められている。新しい技術との融合や、紀南の資源を保全活用する視点、持続可能な経済活動や地域振興に繋げる教育機会の創出など、日々刻々と変化する次代でサテライトが果たすべき役割は何か、「地域の知の拠点」として地域と寄り添いながら共に活動していきたい。

事業に関するお問い合わせ

南紀熊野サテライト

E-mail : nankuma@wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/nanki-kumano/>

